



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

慢性心不全に対するアポトーシス抑制因子可溶性Fas
遺伝子治療 –
新たに開発されたガットレスadenovirus
vectorを用いた検討 –

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西垣, 和彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/624

は し が き

拡張型心筋症は難治性の心不全であり、心移植以外に適切な治療法はない。拡張型心筋症の成因の一つは、アポトーシスであると考えられている。

Fas-Fas リガンド(Fas-L)系において Fas、Fas-L および可溶性 Fas-L はアポトーシスを誘導するが、可溶性 Fas (sFas)は Fas と Fas-L ならびに sFas-L との結合をブロックすることによりアポトーシスをブロックできる。ヒトの慢性心不全において血漿中の sFas は心不全の重症度に応じて上昇し、かつ心不全の程度が同じ時、予後は血漿 sFas 上昇群で良好であった。すなわち、sFas はアポトーシスをブロックすることにより心不全の進行を抑制 している可能性がある。

したがって、アポトーシスブロッカーである sFas 遺伝子治療が拡張型心筋症に効果を持つかを検討することは重要である。

本書は、科学研究費補助金（基盤研究(C)(2) “慢性心不全に対するアポトーシス抑制因子可溶性 Fas 遺伝子治療 - 新たに開発されたガットレス adenovirus vector を用いた検討 -” についての研究に関する総括的研究成果報告書である。